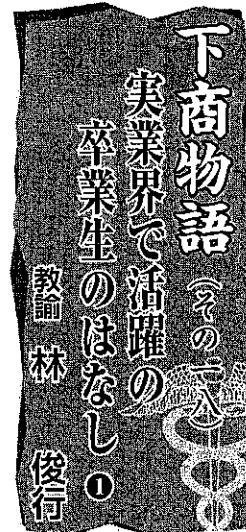


平成23年12月22日(木)発行



本校の卒業生は、今回の卒業式で累計「二万八千名」を越えます。ちなみに本校初の卒業式は、明治二十年十月でわずか五名(第一期)の入学生は三十六名(当時は半年毎のかなり厳しい進級制度で落第が多かった)からのスタートでした。この累計数はなんと単純に言えば現在の下関市民の方で十名に一人は本校の卒業生になる人数となります。

今回は、数多い卒業生の中で各界で活躍された主な方々を何回かに分けて紹介してみたいと思います。卒業生が社会に出て活躍する際に何かに役立つことがあるかも知れませんのでどうぞ参考にしてください。

まずは、地元経済界では現在の山口銀行の土台を築かれた初代頭取の「布浦義作氏(大正二年卒)」身上とする堅実主義に基づき、「健全なる積極進取」の経営方針のもと全国の地方銀行のトップを切って総合オンライン制導入されました。現在の下関駅近くに就任されました。また、山口合同

本校の卒業生は、今回の卒業式で累計「二万八千名」を越えます。ちなみに本校初の卒業式は、明治二十年十月でわずか五名(第一期)の入学生は三十六名(当時は半年毎のかなり厳しい進級制度で落第が多かった)からのスタートでした。この累計数はなんと単純に言えば現在の下関市民の方で十名に一人は本校の卒業生になる人数となります。

今回は、数多い卒業生の中で各界で活躍された主な方々を何回かに分けて紹介してみたいと思います。卒業生が社会に出て活躍する際に何かに役立つことがあるかも知れませんのでどうぞ参考にしてください。

まずは、地元経済界では現在の山口銀行の土台を築かれた初代頭取の「布浦義作氏(大正二年卒)」身上とする堅実主義に基づき、「健全なる積極進取」の経営方針のもと全国の地方銀行のトップを切って総合オンライン制導入されました。現在の下関駅近くに就任されました。また、山口合同

ガス元社長「岩田整氏(昭和八年卒)」も地元エネルギー産業界をリードされ、本校の野球部後援会長も担当され野球部の発展にも貢献されました。

わが国の経済界では、「大和に債券の菊一あり」といわれた元大和証券社長の「菊一岩夫氏(昭和八年卒)」現在の富士通の元社長・会長を永年勤められた和田恒輔氏(明治三十八年卒)や、現在の「TOTO」の前身であった東洋陶器会長・会長「黒河谷人氏(昭和二年卒)」一代でエネルギー業界大手布浦氏のもとで帝王學を学ばれ同行の堅実路線を引き継がれ確実に実績を挙げられました。ご両名とも本校の同窓会理事長の要職も在職中に兼務され同窓会の発展にも大貢献されました。

市民に身近な信用金庫で旧下関信用金庫をまとめられたのは、「河野治義氏(昭和十年卒)」で、昭和四十四年から理事長として「庶民金融」を強調され実績を上げられました。現在は西中国信用金庫となり営業規模・範囲も大きくなり地元を代表する金庫を理事長として活躍されておられるのは、「山本徹氏(昭和二十三年卒)」で、西日本の経済界をリードされておられます。同氏は、今度の十月中旬開催された社団法人下

ガス元社長「岩田整氏(昭和八年卒)」も地元エネルギー産業界をリードされ、本校の野球部後援会長も担当され野球部の発展にも貢献されました。

わが国の経済界では、「大和に債券の菊一あり」といわれた元大和証券社長の「菊一岩夫氏(昭和八年卒)」現在の富士通の元社長・会長を永年勤められた和田恒輔氏(明治三十八年卒)や、現在の「TOTO」の前身であった東洋陶器会長・会長「黒河谷人氏(昭和二年卒)」一代でエネルギー業界大手布浦氏のもとで帝王學を学ばれ同行の堅実路線を引き継がれ確実に実績を挙げられました。ご両名とも本校の同窓会理事長の要職も在職中に兼務され同窓会の発展にも大貢献されました。

市民に身近な信用金庫で旧下関信用金庫をまとめられたのは、「河野治義氏(昭和十年卒)」で、昭和四十四年から理事長として「庶民金融」を強調され実績を上げられました。現在は西中国信用金庫となり営業規模・範囲も大きくなり地元を代表する金庫を理事長として活躍されておられるのは、「山本徹氏(昭和二十三年卒)」で、西日本の経済界をリードされておられます。同氏は、今度の十月中旬開催された社団法人下